

「新燃岳の火山灰採取(5)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka



「高千穂河原」にはサービスセンターがあり、自然に関する展示のほか、研究員も常駐しています。火山灰のことを聞いたら、たくさん降ったということです。



降灰状況を案内してもらいました。駐車場周辺の水たまりの底に、集積しているとのことでした。



確かに普通の泥ではありません。噴火前にはこのような堆積物はなかったそうです。



指ですくってみると、ねっとりした感触です。指先でこすってみると、ザラザラとした火山灰鉱物独特の感触で、正体は紛れもなく「火山灰」です。



高千穂河原から、次の火山灰採取予定地の「新湯温泉」までは、山腹の道路で短絡しているのですが、この日は火山噴火警戒レベルが3だったので、通行止めでした。仕方なく、麓の県道まで下りて、1時間近く遠回りをして向かいました。



このほかの道も、あちこちが通行止めになっています。このあたりは、火山景観や温泉を楽しむための観光地や保養地なので、噴火警戒レベルの引き上げは、大きな打撃になっているようでした。